

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を、グループホームの玄関に掲示している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に、理念を読み上げ実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業所として、グループホームの他に地域密着型特定施設、デイサービス、訪問介護、居宅介護支援等の事業を実施しており、地域の高齢者に多く利用していただいている。 菰田地区の高齢者福祉の拠点となり、一貫したサービスが出来るよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣組長や近所の方が、広報『飯塚』を持ってこられたり、組費の徴収、連絡等の訪問がある。 前の家の方から、収穫されたさつまいもの差し入れがある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームを一戸として、自治会及び隣組に加入している。 地域の行事(まつり、敬老会、運動会など)にも参加している。 こども山笠が、毎年ホーム玄関まで上がってきていただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方や利用者の家族を対象に、介護教室を開催している。 地域の協力でふれあい夏祭りの開催が出来た。 又、地域の公民館祭り等に協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を管理者、職員全体で共有し、サービスの質の向上の動機づけと考えている。 昨年不十分だったところの改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、奇数月に開催している。 利用者の状況、サービスの提供状況、行事等の実施報告をし、推進委員の意見等をいただき、スタッフに報告し改善すべきところがあれば改善に向け取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設で開催した夏祭りにお招きしました。必要時には電話等でお話ししたり、相談したりしています。 毎月、市派遣の介護相談員2名が来訪されている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	グループホーム協議会、市主催、介護支援専門員連絡協議会等の研修に参加している。 スタッフに回覧等で、伝達している。 当ホームの利用者については、今のところ該当者はない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内において、虐待等はない。 毎朝利用者のバイタルチェックの時、顔色表情等の確認をしている。 スタッフ教育の中で、言葉遣い、接する態度等の注意を払っている。	○	高齢者虐待関連防止法についての研修の受講は今のところない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の家族に交代で参加もしていただいている。 ホーム玄関靴箱の上に、面会簿と並べて苦情箱を設置している。 苦情申出窓口の設置。そのことのお知らせをホーム内壁に貼付している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月月末に近況報告の便りを家族へ出している。 (健康状態、暮らしぶり、ホーム行事、おこずかい等小額あずかり金の収支報告。) 3ヶ月毎のふれあいだより(顔写真入り)	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族への声掛けを励行している。 年2回の家族会の開催時に苦言、苦情をいただくお願いを管理者がしている。 介護計画説明時に、主任が意見等をお尋ねしている。。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施している。 必要時に個別面談をする。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が勤務表を組んでいる。 職員の希望をとりいれている。緊急時等必要な時間帯に職員の確保は出来ている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあるが一定の固定職員を確保している。利用者への配慮は心がけて異動している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等を採用対象から排除するようなことはない。 職員については、事業所間の異動、休暇等の希望はとりいれるようにしている。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地区にもう1箇所グループホームがあり、一緒に人権学習を行った。 人権、高齢者を尊重することは、日ごろから教育指している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の勧め、又、研修に行く際の勤務調整等の便宜を図っている。 グループホーム協議会の研修や学習会に参加している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菰田地区にグループホームが別に1ヶ所あり、勉強会や行事の参加 等の交流をしている。人事交流をしたこともある。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員互助会が組織しており、歓送迎会や懇親会をしている。 又、職員の勤務に対する要望、希望は可能な限り聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各種資格を取得することへの奨励 資格手当での支給		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでは、管理者が対応し、入居後は、主任を中心にスタッフが、関わりを深めていくことにしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅介護支援事業所のケアマネジャーや、病院のソーシャルワーカー等と連絡しあいながら入居までの対応を支援している。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応は、管理者(介護支援専門員)が対応し、その時必要な支援を提案しながら、対応している。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム共有型の認知症対応型デイサービスの指定を受けているので、入居の申し込みを受けた時点で、利用をお勧めし、自宅からグループホームに通っていただき、環境に馴染んでいただき、スタッフ、利用者との顔なじみの事前準備の時間が持てている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の配膳、後片付け、お掃除、洗濯干し、たたみ等をスタッフ、利用者で共同作業する時間にスタッフのが教わることが多く、謙虚に感謝し、その時を共有している。一緒にテレビを見て笑い、ゲーム、体操、レクリエーションでも盛り上がっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	心身、身体両面の状況をスタッフ、家族が共通認識しておけるよう連絡を密にしている。家族に本人から年賀状や、暑中見舞いを出したり、家族から母の日のメッセージを戴だいたり、定期的通院の介助をお願いしたりしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の生活歴、家族との関係等の情報、状況把握に努め、個人差のある家族との関係を、よりよくできるよう支援している。面会時には、家族と過ごせる空間をつくり楽しい時間が過ごせる働きをかけたり、ゲームに参加していただいたりしている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お稽古仲間、教え子、、友人、親類、近所の方々等訪問者の歓迎。 ゆっくりして頂けるための配慮。 本人が行きたいと思われるところへの外出。戸外ドライブ等を実施している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝の挨拶の呼びかけ、食事テーブルの席の配慮、ゲーム等のチームわけ、協働作業での助け合いの支援等に努めている		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族と疎遠にならないように常に考えている。利用料のお支払いの時の面会、定期受診の同行。家族会、夏祭り、介護教室や、法人他事業所の行事等の参加見学のご案内をして、参加していただいている。		
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに寄り添うケアに努め、思いや希望の把握をしている。 本人とのみの対面でゆっくり話せる時間をつくっている。。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活等の状況に関してこられた家族、ケアマネ等から情報をいただき、可能な限り把握している。一人ひとりに寄り添うケアに努め、思いや希望の把握をしている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの毎日の健康管理。心身状態の把握。行動観察することで、本人の現状を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の単発的、継続的な課題について、本人を尊重しつつ、家族の意向、意見を聴き、スタッフ間で話し合いをし、介護計画に反映している。必要時には、本人、家族、スタッフが一同に会しての担当者会議の実施をしている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを実施している。対応できない変化等生じた場合は、家族等と話し合い、随時見直しを実施している。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化等を主に記録しているが、記録不足があり、気づき、工夫等スタッフが実践しているにも関わらず・情報の共有不足があり、早期の介護計画の変更とならない時がある。	○	記録を充実させるための勉強会の実施
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスのプログラム(工作、歌唱など)、夏祭り、敬老会、忘年会、ボランティア訪問時などに参加交流。デイサービス終了後や休みの日にはセンターを利用してリハビリ、ゲーム等をしている。花火大会の日は、併設の有料老人ホームで交流見学を実施した。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者、看護師が入院先を訪問し医師や担当看護師より病状、経過等の情報をいただいている。長期入院は廃用によるねたきりをつくりかねないので、ホームの受け入れ態勢の説明をし、退院後の簡単なリハビリの実施が可能なことを伝え、早期退院に向けた支援を実施している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合も根可能な限り支援、介護はしていく。現在のところ、個別の話し合いの具体化したものはない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等と話し合いをもつようにする。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在のところ、支援体制は確立していない。	○	意識付けのためのスタッフ勉強会にとりくむ。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を実施している。持ちえる情報の伝達をおこなっている。必要な情報提供の同意を得ている。 住み替え先の訪問も行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的な支援として、個人の尊厳を保ちながらプライバシーの保持を実施している。 記録等については、家族の求めがあれば開示している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で、活動に自然に参加できるよう雰囲気作りに配慮している。無理強いせず、それとなく声掛けをしたりして自主的な動きを待ってみるような支援をしている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日のながれに沿って、本人の希望を聞き対応している。意思表示の困難な方については、体調や気分にあわせて行動への支援をしいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着る物は、なるべく自分で選んでいただくようにしている。2月に1回、出張サービスでカットに来ていただいている。1,000円。 以前は、決まった美容院に家族と出かけて行かれていた利用者もあったが、家族の希望もあり、全員対応している。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は、併設施設の厨房で作っていただいた食事となっている。ご飯はホームで炊き、ホームの食器に盛り付け、配膳、下膳、食器等の洗い物、片づけを利用者と職員が一緒にしている。月2～3回は、食べたいメニューをきき、利用者と職員と一緒に献立作り、買物、調理をしている。食べたいおやつ(ぜんざい、たこ焼き、一銭養洋食、おだんご等)づくりを実施している。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日本酒の好きな利用者がおられ、入居前も飲まれていたこともあり、 寝る前に、少量楽しめるよう支援している。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	布パンツの利用者には、継続できるように、紙パンツの方は、昼間だけでも布パンツで過ごされるように支援している。 意志表示される方は、自己で行かれる支援をし、意思表示のない方については、3時間ごとにトイレ誘導している。 排泄の記録をとって、排泄パターンの把握に心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、7～9月は毎日。10～6月は隔日に実施している。汚染等があった時は、その都度支援している。 入浴時間は、一人ひとりゆっくりはいつていただけるよう、午前午後と長時間スタッフが見守り介助を実施している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して生活していただくことが、支援の基本であることを念頭に置き、本人の体調等に合わせ、休息、午睡、夜間の安眠の確保等の支援をしている。室内環境、温度調節、換気等に配慮しながら見守りをしている。夜間の巡回は1時間毎に実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事的な役割(掃除、洗濯、干し、たたみ、食事の配膳、食器洗い)の分担。 習字。季節の貼り絵。縫い物。塗り絵。工作など。 季節を楽しむドライブ。四季の花見物などに出かけ、気晴らしの支援を実施している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があり、ご家族と話し合いの上所持していただく。 ホームで小額の現金を預かっており、100円ショップ等へ出かけたときに買物を楽しんでもらっている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季候のよい時期には、屋外でラジオ体操、ひなたぼっこ、近くの公園までの散歩をしている。 玄関周りの花植え、水遣り		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を楽しむドライブ。四季の花見物、初詣、ペットショップ、地域の行事などへスタッフと出かける機会を設けている。 週末に家族と出かけられる方とか、病院受診時に家族と食事をされる方など個々にはある。	○	利用者と家族とスタッフと日帰り旅行の計画をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望がないので、スタッフが声かけをして、年賀状、暑中見舞いのはがき書きをして、家族等に出す支援をしている。 家族の方には、母の日や、敬老の日のメッセージをいただくようお願いしている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問を歓迎し、ゆっくりしていただけるようお部屋や食堂へ案内し、静かな空間の確保に努めている。 お帰りの際は、スタッフと一緒に玄関までお送りしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない介護を実践している。 問題行動発生時は、スタッフが付き添い、マンツウマンの介護を実施している。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけることなどはしない。 玄関出入口に音の出るセンサーの設置。一人ひとりの行動の見守りを怠らないようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の状況の見える位置にいるようにし、気がついたらすぐ行動できるようにしている。スタッフ間で声かけの連携を実施している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	縫い物の得意な方などの、針、はさみ等は居室管理は危険と思われるので、職員が、保管管理している。愛用品やこだわりのある物品等で本人にとって危険でないと思われるものは、居室にもっていただいている。共同使用の手指消毒剤等は使用後、スタッフが管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ベット使用者の落下防止柵の使用。 服薬時の一人ひとりに応じた服用及び確認。 一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変の可能性、自己発生時の対応等、日ごろよりスタッフと話し合っているが、看護師(主任)に頼ることが多く、定期的な訓練、勉強会にはいたっていない。マニュアルの準備有。救急救命講習会の開催や講習にも参加している。	○	定期的な勉強会の実施。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	火災時の避難訓練を年2回は実施している。新人の夜勤者に夜間を想定して実際に出火したことでの訓練をしている。緊急時の連絡網あり。ホーム近隣に複数の職員が居住している。 火災発生時のマニュアルあり。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こりうる可能性のあるリスクについては、家族に説明し、協力をお願いしている。 問題発生時は、その都度家族と話し合いをしている。	○	リスクマネジメントの勉強会の実施
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、顔色、表情、動きで異変の早期発見につとめている。 気づいたことは、スタッフ間で共有できるよう申し送り時や、連絡ノートへの記入の励行。 日中、夜間を通じて、見守り、観察を怠らないようにしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について、薬の説明書きや看護師等からの説明を受け、服用間違いのないように、各個人の薬入れに充分気をつけて、分けている。薬分封袋にも、個人の記名をしている。 日ごろから症状の変化の確認に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	廊下回廊など適度な運動を実施している。 食事量の把握、水分摂取の確認、水分補給の支援の実施 便秘気味の時は、ひとりひとりの体調に合わせ、緩下剤の服用の支援を実施している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、うがい、歯磨きを実施している。 義歯は、スタッフが洗浄し、夜間はお預かりしている。 歯茎の出血や、炎症のチェック 歯科医に年1回は検診をうけ、治療が必要な時は、家族に相談して、治療を受けている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量については、毎日、毎食観察し、記録している。栄養バランスについては、栄養士が立てた献立の食事を提供している。 食事摂取は、声かけ、介助を行い出来るだけ食べていただくよう支援している。夜間の水分補給も気をつけている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防については、看護師(主任)が日ごろから気をつけ、指導している。トイレ後、食事前の手洗いの励行。うがい。食前、おやつ前の手指の消毒。予防接種の支援(毎年摂取の支援)。学習会の参加。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等の衛生管理は、常に実施している。食堂が専用室となっている。 厨房が専用であり、食材管理は、委託業者が管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	同一建物に他事業が併設している状況ではあるが、グループホームとわかる様に、表示板の設置。入り口ドアの表示、玄関周りの花壇作り、玄関の生け花などの工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、照明、室温、換気等に配慮しながら、共有の居間の確保に努めている。畳敷きに掘りごたつがあり、テレビ、ソファを置き、居眠りの出来る環境としている。天候による照明のコントロール。音楽を適宜流したりしている。壁には、季節のカレンダーを飾っている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と共有の居間を自由に行き来してある。ソファにすわり、テレビを見たり、会話したり、居眠りしたり of 光景が見られる。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談して、愛用のものや、使い慣れたものをもってきていただいている。一人ひとりが、安心して、居心地よく過ごせるようしている		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床されるとまず居室の窓、廊下、居間、食堂を開け爽やかな空気を取り入れている。日中は、窓の開閉による空気の入替え、室温調整に心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、居室の中心に廊下があり、回廊歩行を毎日実施している。浴室、トイレ、廊下には、手すりを設置し、立位保持に努めている。居室、居間、食堂を移動されるので、障害物を置かないよう注意している。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	光、照明、壁、カーテンの色等適当な明るさ、色合いに配慮している。 居室入り口に写真つきの名前表示を掲示している。 一人ひとり、出来ることはしていただく支援に努めている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭があり、天気の良い日は日向ぼっこや、外での食事に利用したりしている。 玄関前で、朝のラジオ体操や10時のティタイムをしたりすることもある。 入り口の花壇作り、水遣り、ホーム周辺に植栽してあるきんかんの実を採りに行ったりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者一人ひとりを正しく理解し、個人としての個別性を尊重し、尊敬をもって対応するよう心がけながら、今日一日を大切にと考え、日々の生活を支援している。

家庭的雰囲気を保ちながら、利用者が安心して過されるよう、寄り添うケアに努めている。

一人ひとりの体調の変化に対応できるよう、日々、バイタルチェックや観察を実施し、健康管理に努めている。